

もとす広域連合
介護人材実態調査(ケアマネジャー用)
結果報告書

令和5年3月
もとす広域連合

目次

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 報告書の見方	1
II 介護人材実態調査(ケアマネジャー用)	2
1. 現在の仕事について	2
2. 介護保険制度全般について	7
3. 地域包括支援センターについて	9
4. 家族介護者等による虐待について	10
5. 認知症に関する施策等について	13
6. ヤングケアラーについて	15
7. その他	16

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「もとす広域連合第9期介護保険事業計画」の策定に向けて、ケアマネジャーの実態把握することで、今後必要となる取組等の検討に向けた基礎資料を得ることを目的に実施しました。

2. 調査概要

区分	介護人材実態調査(ケアマネジャー用)結果
調査対象者	居宅介護支援、介護予防を実施する事業所で従事するケアマネジャー
調査票配布数	29事業所
回収数	21事業所 (回答件数:92件)
回答率	72.4%
調査期間	令和5年1月10日～2月3日
調査方法	「医療・介護情報検索システム(管内事業所が閲覧可能)」にて案内文を掲載 持参もしくはデータ送付にて回答

3. 報告書の見方

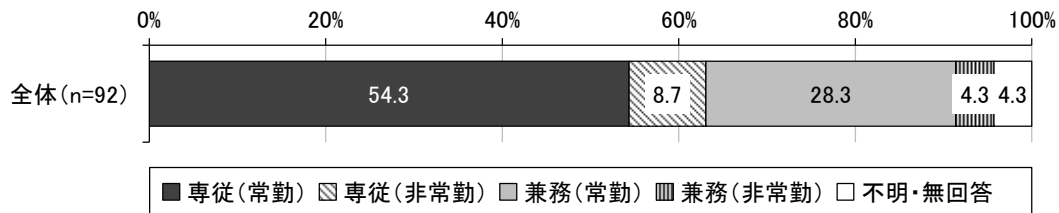
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N(number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

Ⅱ 介護人材実態調査(ケアマネジャー用)結果

1. 現在の仕事について

問1 勤務形態は、どれに該当しますか。(〇は1つ)

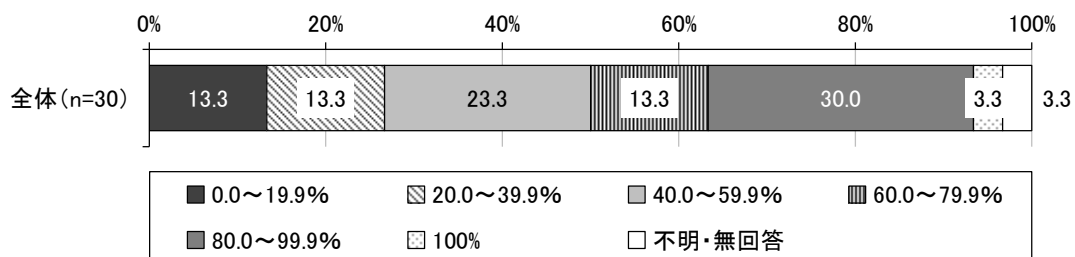
勤務形態についてみると、「専従(常勤)」が54.3%と最も高く、次いで「兼務(常勤)」が28.3%、「専従(非常勤)」が8.7%となっています。



【問2は、問1で「3. 兼務(常勤)または4. 兼務(非常勤)」を選択された方のみ】

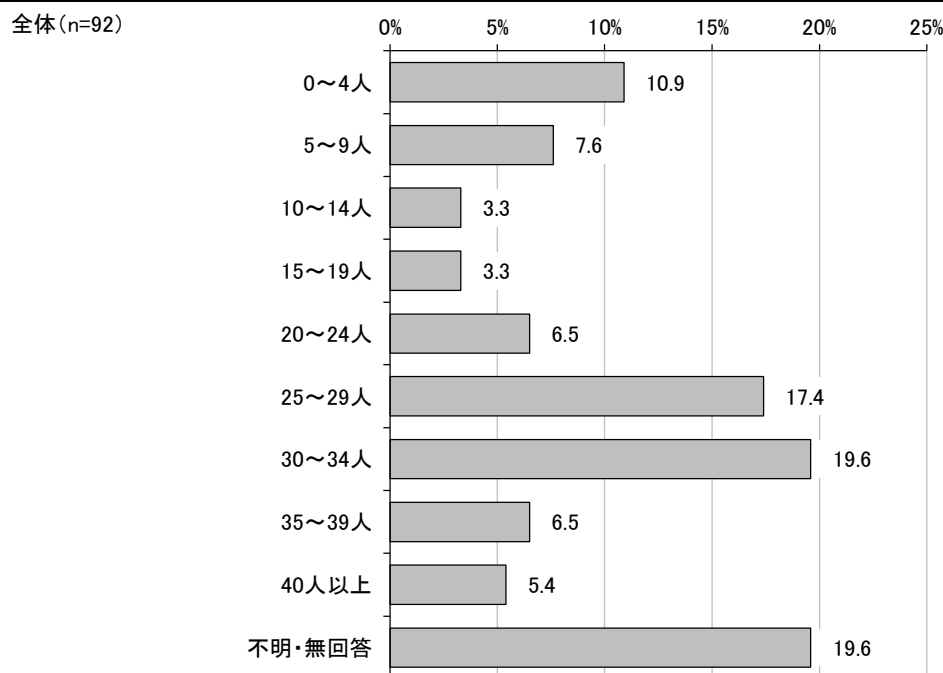
問2 あなたの業務全体に占める介護支援専門員の業務の割合は、どのくらいですか。

業務全体に占める介護支援専門員の業務の割合についてみると、「80.0～99.9%」が30.0%と最も高く、次いで「40.0～59.9%」が23.3%、「0.0～19.9%」「20.0～39.9%」「60.0～79.9%」がそれぞれ13.3%となっています。



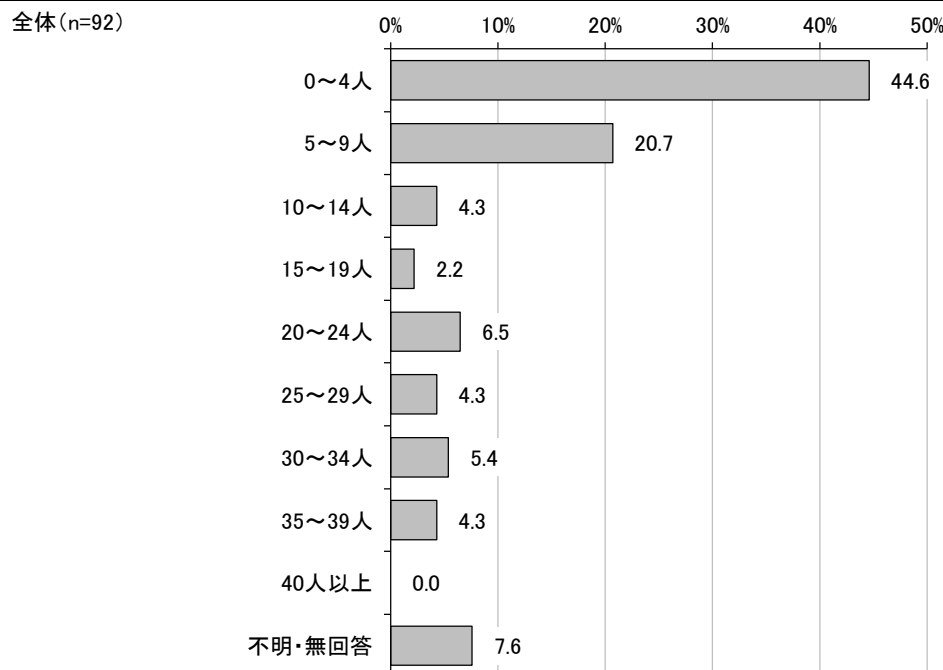
問 3-① 令和4年12月1日現在、あなたは何人のケアプランを担当していますか(介護給付)

ケアプラン(介護給付)の担当人数についてみると、「30～34人」が19.6%と最も高く、次いで「25～29人」が17.4%、「0～4人」が10.9%となっています。



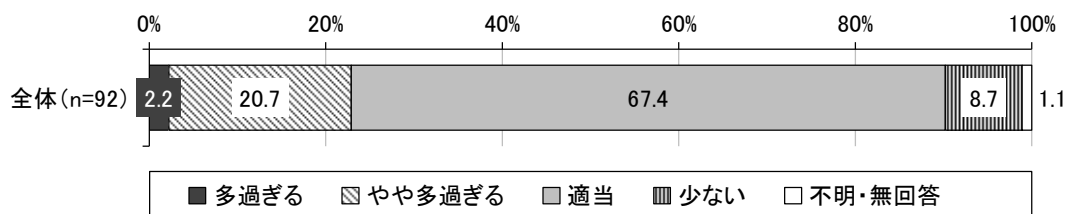
問 3-② 令和4年12月1日現在、あなたは何人のケアプランを担当していますか(予防給付)

ケアプラン(予防給付)の担当人数についてみると、「0～4人」が44.6%と最も高く、次いで「5～9人」が20.7%、「20～24人」が6.5%となっています。



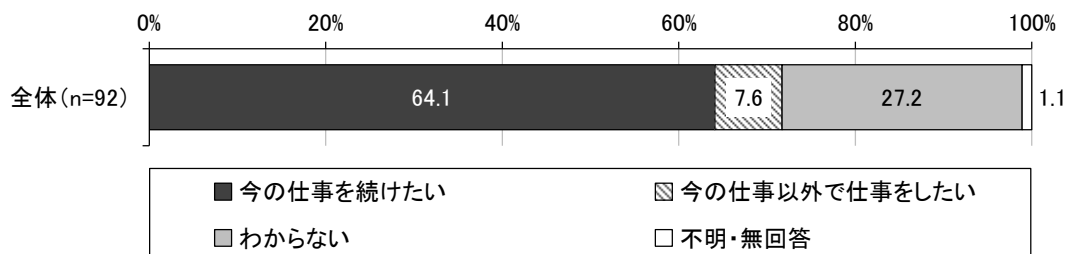
問 4 担当している利用者の人数は、適当ですか。(〇は1つ)

担当している利用者の人数は、適当かについてみると、「適当」が67.4%と最も高く、次いで「やや多過ぎる」が20.7%、「少ない」が8.7%となっています。



問 5 今の勤務先に限らず、あなたの仕事(職種)に関する希望は次のうちどれにあてはまりますか。(〇は1つ)

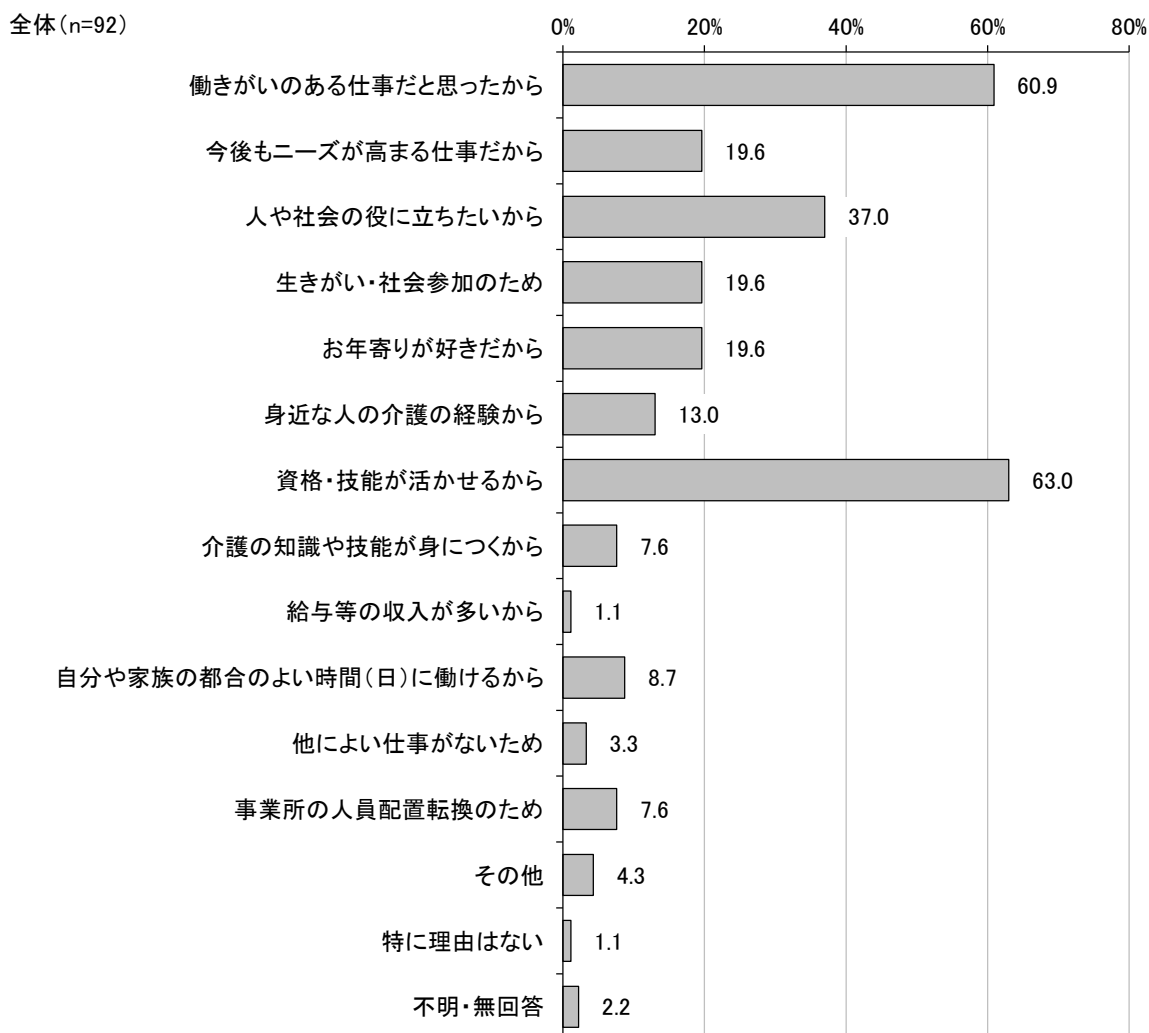
仕事(職種)に関する希望についてみると、「今の仕事を続けたい」が64.1%と最も高く、次いで「わからない」が27.2%、「今の仕事以外で仕事をしたい」が7.6%となっています。



問 6 あなたが現在の仕事を選んだ理由は次のうちどれにあてはまりますか。

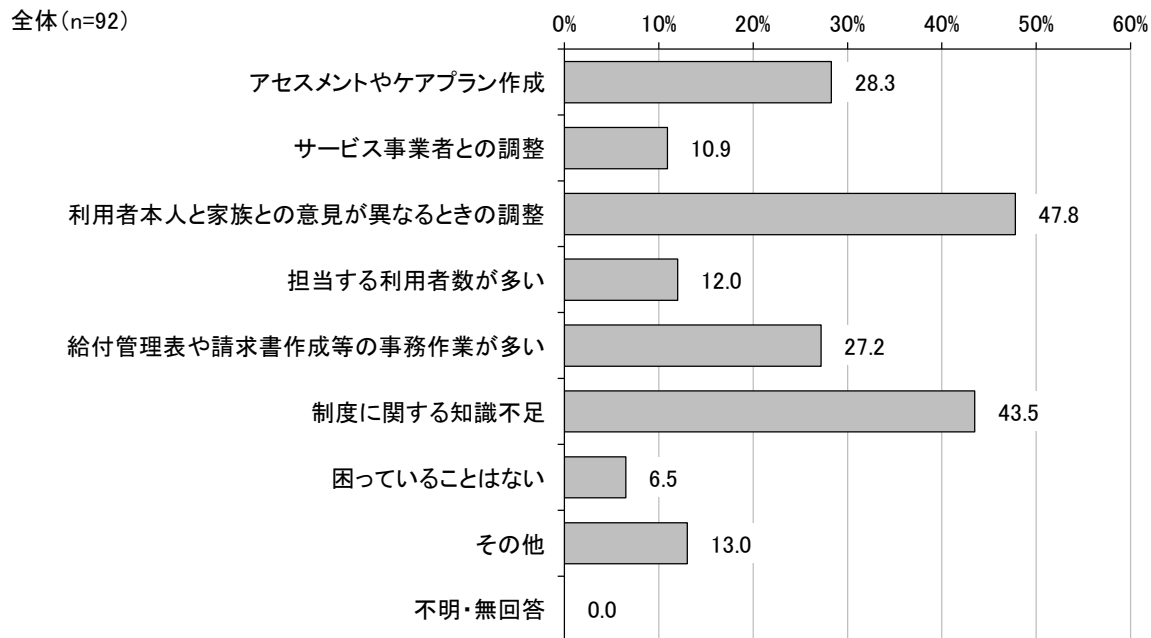
(〇はいくつでも)

現在の仕事を選んだ理由についてみると、「資格・技能が活かせるから」が 63.0%と最も高く、次いで「働きがいのある仕事だと思ったから」が 60.9%、「人や社会の役に立ちたいから」が 37.0%となっています。



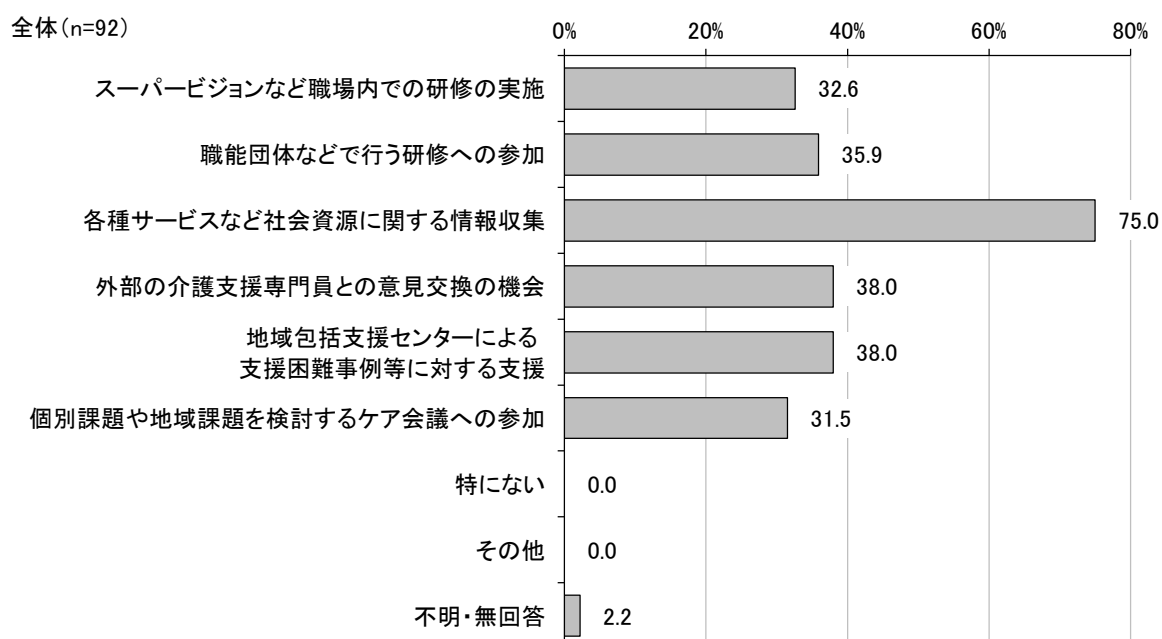
問 7 業務を行うにあたり、あなたが現在困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

業務を行うにあたり、現在困っていることについてみると、「利用者本人と家族との意見が異なるときの調整」が 47.8%と最も高く、次いで「制度に関する知識不足」が 43.5%、「アセスメントやケアプラン作成」が 28.3%となっています。



問 8 今後、質の向上のため、どのようなことが必要だと思いませんか。(〇はいくつでも)

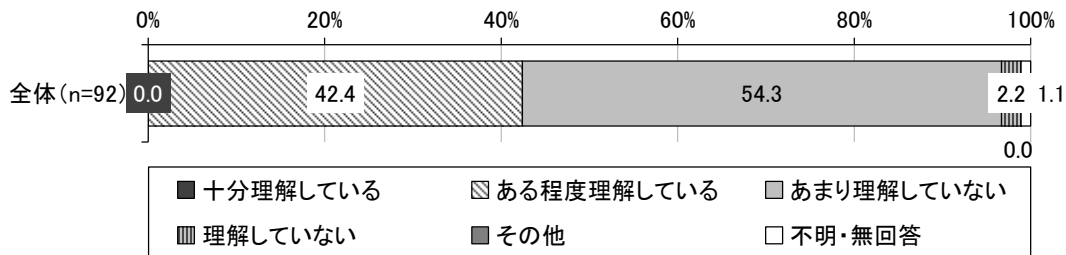
質の向上のため、どのようなことが必要だと思うかについてみると、「各種サービスなど社会資源に関する情報収集」が 75.0%と最も高く、次いで「外部の介護支援専門員との意見交換の機会」「地域包括支援センターによる支援困難事例等に対する支援」がそれぞれ 38.0%となっています。



2. 介護保険制度全般について

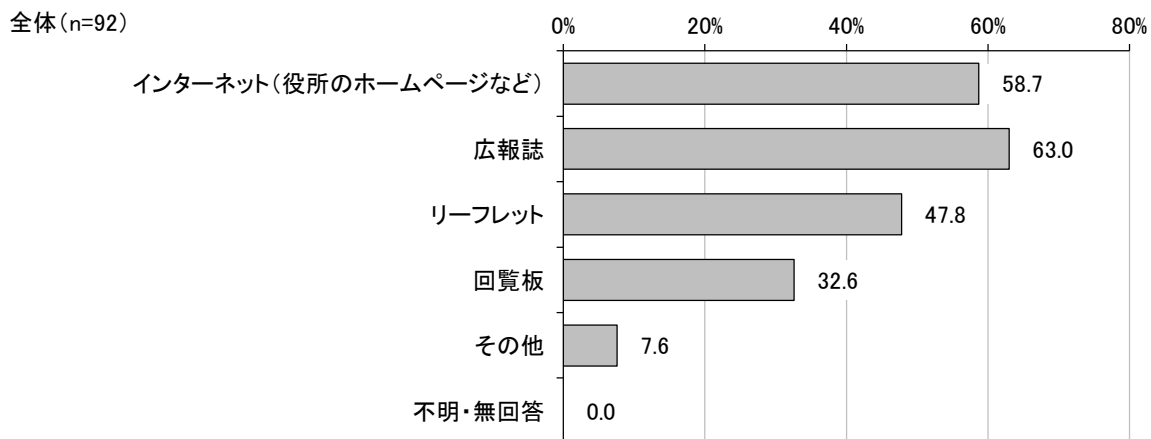
問 9 利用者やその家族は介護保険制度をどのくらい理解していると思いますか。(〇は1つ)

介護保険制度をどのくらい理解しているかについてみると、「あまり理解していない」が54.3%と最も高く、次いで「ある程度理解している」が42.4%、「理解していない」が2.2%となっています。



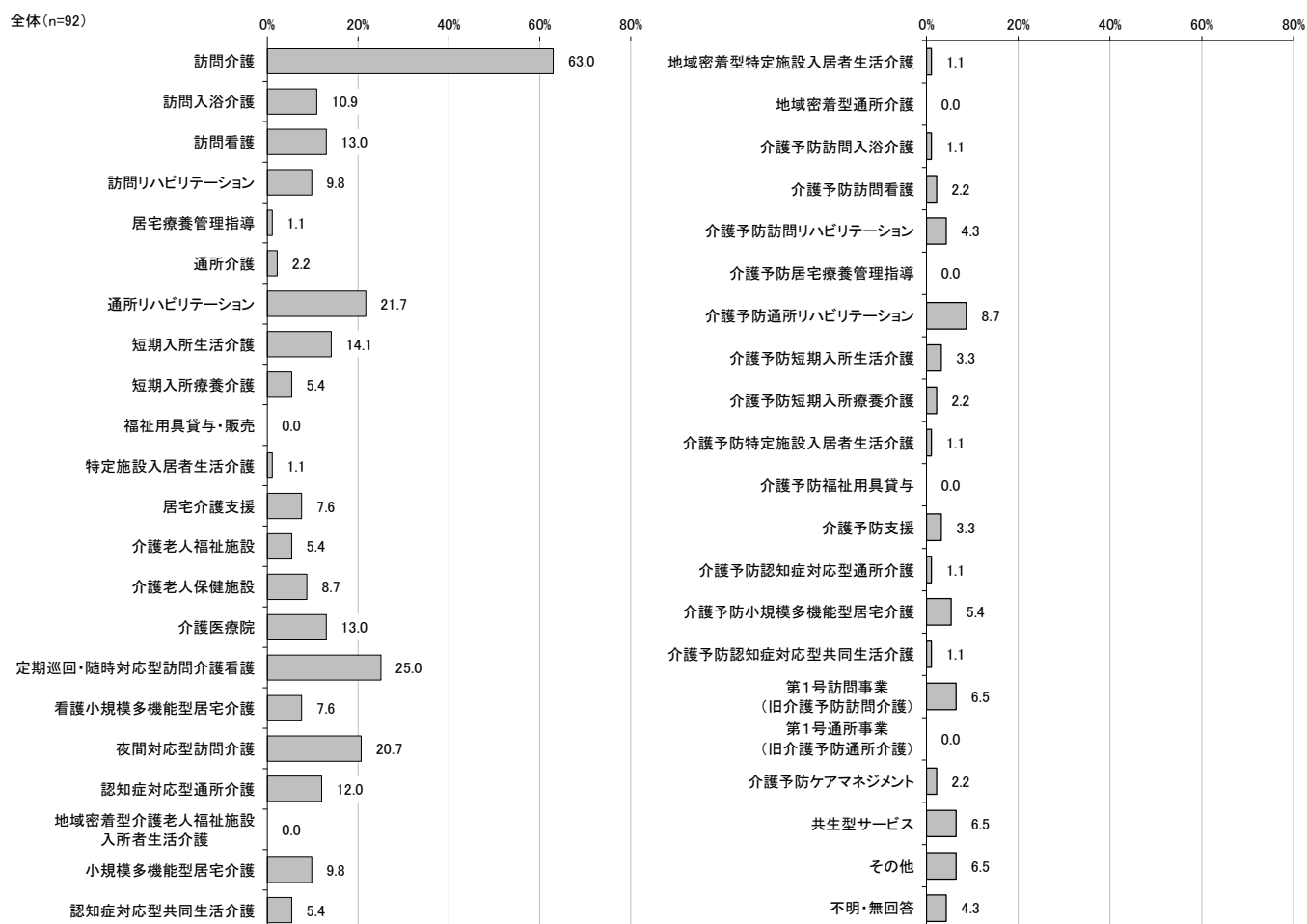
問 10 介護保険制度の周知には、どのような方法が有効だと思いますか。(〇はいくつでも)

介護保険制度の周知には、どのような方法が有効だと思うかについてみると、「広報誌」が63.0%と最も高く、次いで「インターネット(役所のホームページなど)」が58.7%、「リーフレット」が47.8%となっています。



問 11 介護保険対象のサービスの中で、供給が不足していると感じているサービスはありますか。(〇はいくつでも)

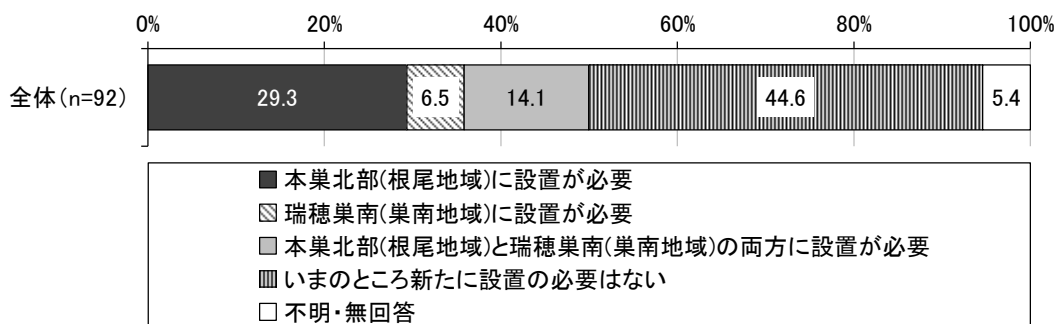
介護保険対象のサービスの中で、供給が不足していると感じているサービスについてみると、「訪問介護」が 63.0%と最も高く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が 25.0%、「通所リハビリテーション」が 21.7%となっています。



3. 地域包括支援センターについて

問 12 介護に関する相談窓口である地域包括支援センターが、現在「瑞穂穂積」「本巣南部」「北方」の3地域にしかないことについて、どう思いますか。(○は1つ)

地域包括支援センターが、現在「瑞穂穂積」「本巣南部」「北方」の3地域にしかないことについてみると、「いまのところ新たに設置の必要はない」が 44.6%と最も高く、次いで「本巣北部(根尾地域)に設置が必要」が 29.3%、「本巣北部(根尾地域)と瑞穂巣南(巣南地域)の両方に設置が必要」が 14.1%となっています。



4. 家族介護者等による虐待について

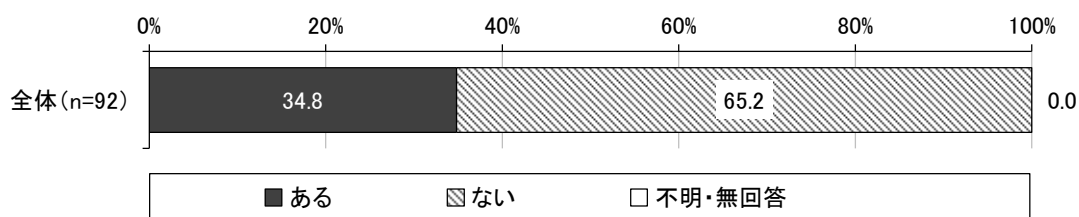
問 13 直近1年間で、家族介護者等による虐待が疑われるケースに関わったことがありますか。(〇は1つ)

※「1. ある」を選択された方は、()内にその件数を記入してください。

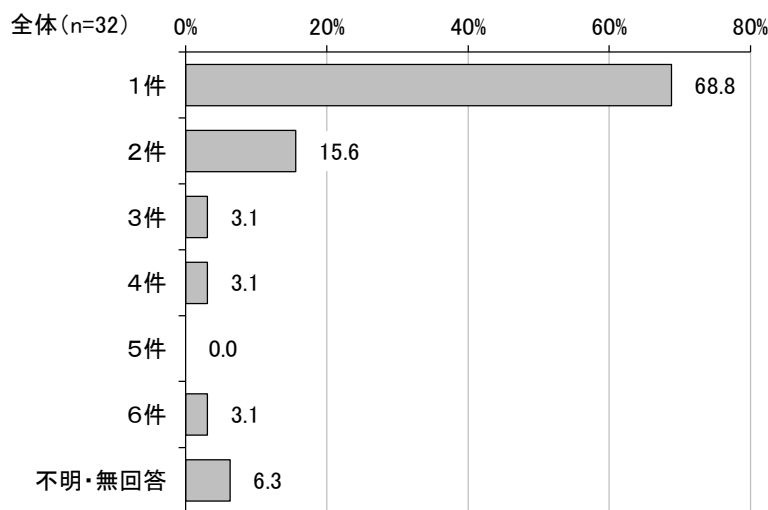
家族介護者等による虐待が疑われるケースに関わったことがあるかについてみると、「ある」が34.8%、「ない」が65.2%となっています。

件数についてみると、「1件」が68.8%と最も高く、次いで「2件」が15.6%、「3件」「4件」「6件」がそれぞれ3.1%となっています。

■虐待の疑われるケースに関わった経験の有無



■虐待の疑われるケースに関わった件数



【問 14～問 17 は、問 13「家族介護者等による虐待が疑われるケースに関わったことがあるかについて「1.ある」を選択された方】

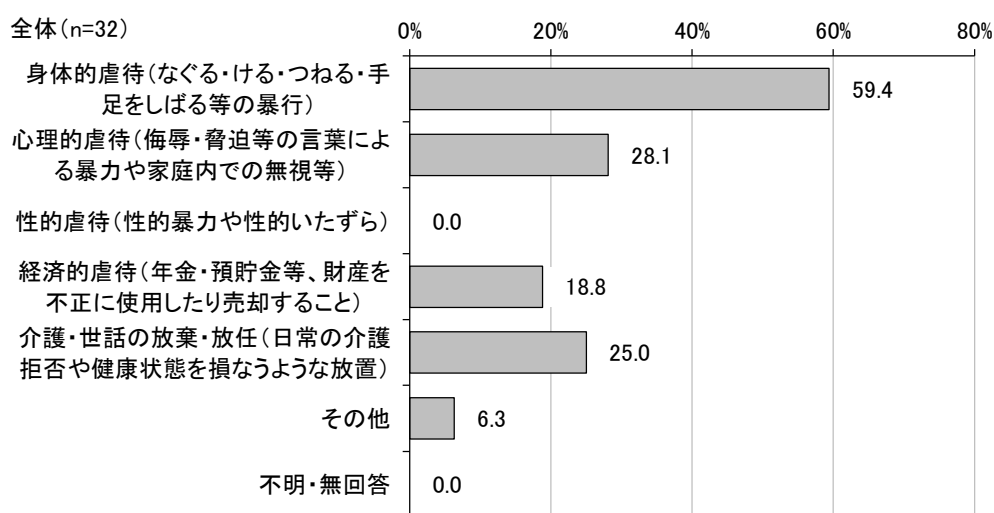
※問 14～問 17 は、直近1年間の実績でお答えください。

問 14 あなたが関わった虐待の疑われるケースは、次の分類で何件ずつになりますか。
(あてはまる分類すべてに○をつけ、件数を記入してください)

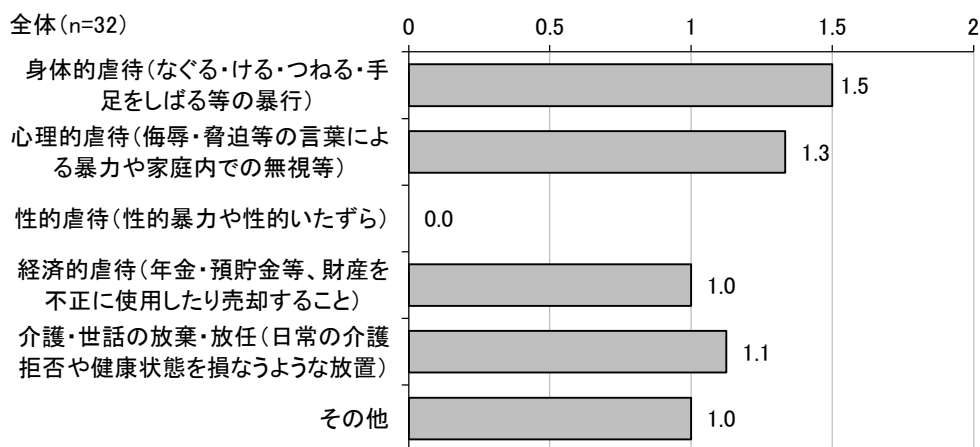
虐待の疑われるケースについてみると、「身体的虐待」が 59.4%と最も高く、次いで「心理的虐待」が 28.1%、「介護・世話の放棄・放任」が 25.0%となっています。

件数の平均についてみると、「身体的虐待」が 1.5 件と最も多く、次いで「心理的虐待」が 1.3 件、「介護・世話の放棄・放任」が 1.1 件、「経済的虐待」「その他」がともに 1.0 件となっています。

■ 虐待の疑われるケースの分類



■ 虐待の疑われるケースの件数(平均)



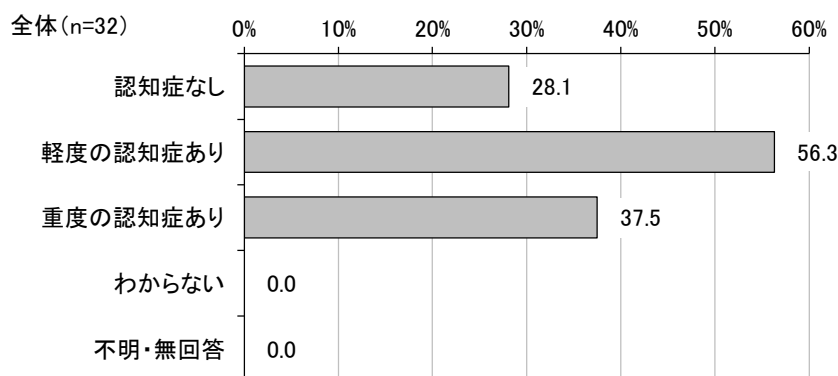
問 15 虐待を受けている高齢者本人に認知症はありますか。

(あてはまる項目すべてに○をつけ、件数を記入してください)

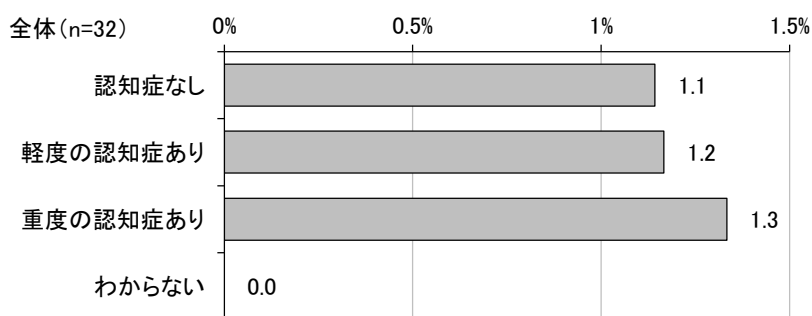
虐待を受けている高齢者本人に認知症があるかについてみると、「軽度の認知症あり」が 56.3%と最も高く、次いで「重度の認知症あり」が 37.5%、「認知症なし」が 28.1%となっています。

件数の平均についてみると、「重度の認知症あり」が 1.3 件と最も多く、次いで「軽度の認知症あり」が 1.2 件、「認知症なし」が 1.1 件となっています。

■虐待を受けている高齢者本人の認知症の有無

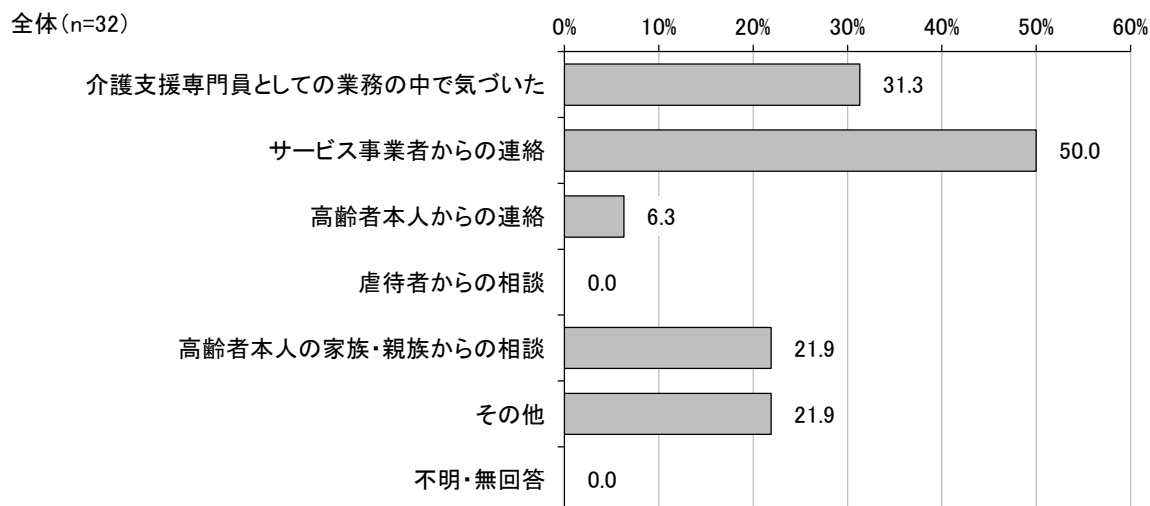


■認知症の症状別の虐待件数(平均)



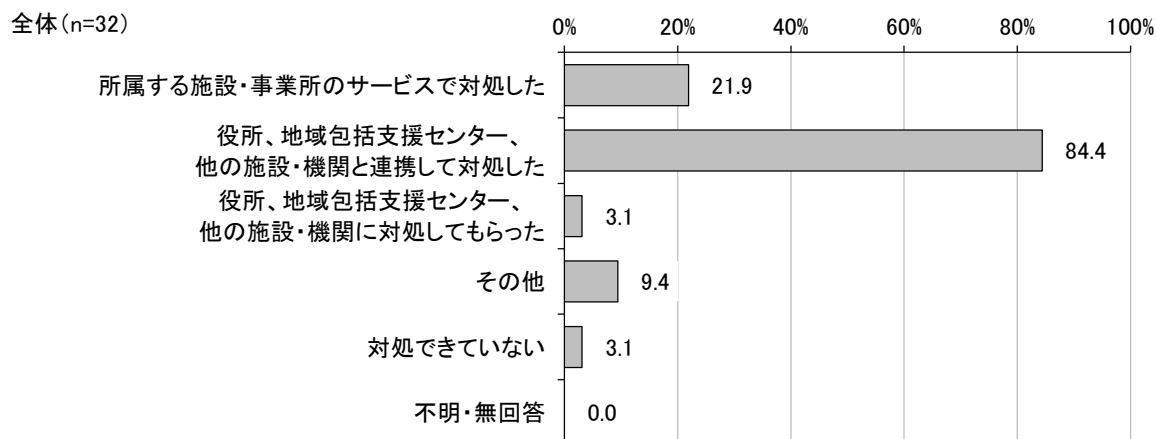
問 16 あなたが高齢者虐待を知った経緯は何ですか。(〇はいくつでも)

高齢者虐待を知った経緯についてみると、「サービス事業者からの連絡」が 50.0%と最も高く、次いで「介護支援専門員としての業務の中で気づいた」が 31.3%、「高齢者本人の家族・親族からの相談」「その他」がそれぞれ 21.9%となっています。



問 17 あなたが虐待を疑われるケースに関わったときに、どのような方法で対処しましたか。(〇はいくつでも)

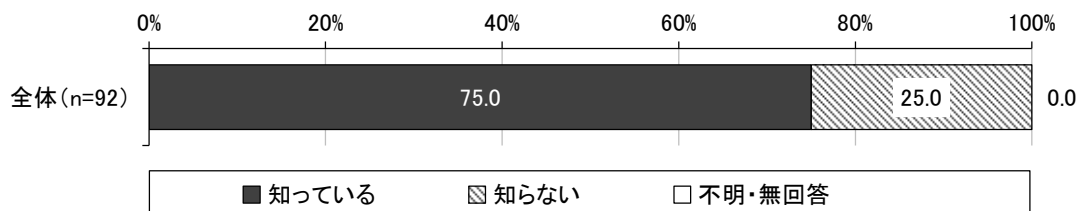
虐待を疑われるケースに関わったときの対処方法についてみると、「役所、地域包括支援センター、他の施設・機関と連携して対処した」が 84.4%と最も高く、次いで「所属する施設・事業所のサービスで対処した」が 21.9%、「その他」が 9.4%となっています。



5. 認知症に関する施策等について

問 18 認知症初期集中支援チームを知っていますか。(〇は1つ)

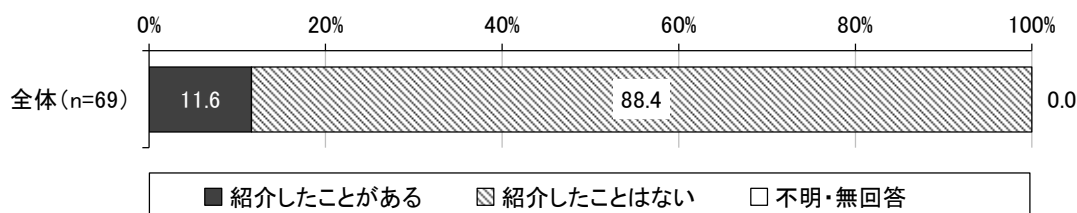
認知症初期集中支援チームについてみると、「知っている」が 75.0%、「知らない」が 25.0%となっています。



【問 19 は、問 18 で「1.知っている」を選択された方のみ】

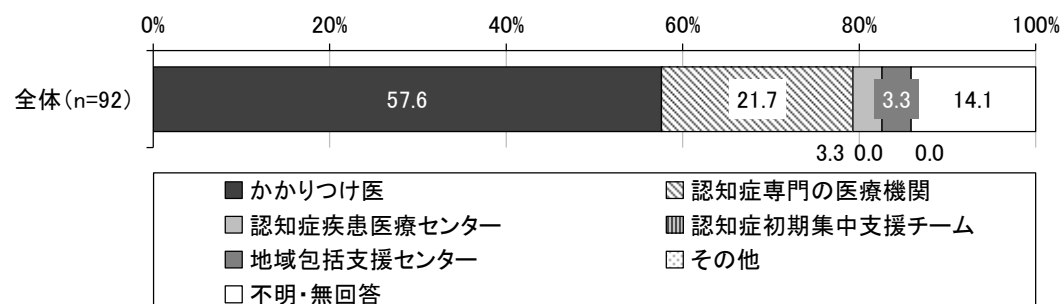
問 19 ケアマネジャーとして、利用者に対して認知症初期集中支援チームを紹介したことがありますか。(〇は1つ)

ケアマネジャーとして、利用者に対して認知症初期集中支援チームを紹介したことがあるかについてみると、「紹介したことがある」が 11.6%、「紹介したことがない」が 88.4%となっています。



問 20 利用者の方に認知症と疑われるような症状が出た際、家族に対してどのような相談窓口をすすめますか。(〇は1つ)

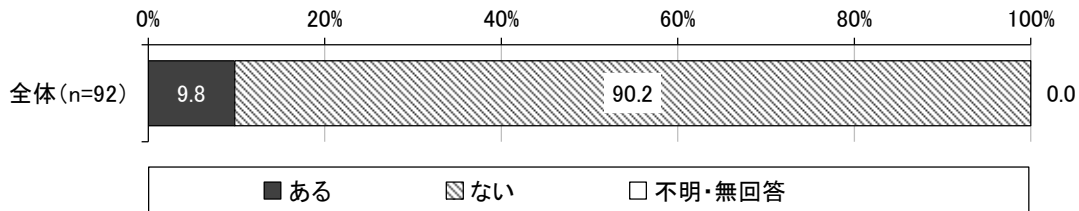
利用者の方に認知症と疑われるような症状が出た際、家族に対してどのような相談窓口をすすめるかについてみると、「かかりつけ医」が 57.6%と最も高く、次いで「認知症専門の医療機関」が 21.7%、「認知症疾患医療センター」「地域包括支援センター」がそれぞれ 3.3%となっています。



6. ヤングケアラーについて

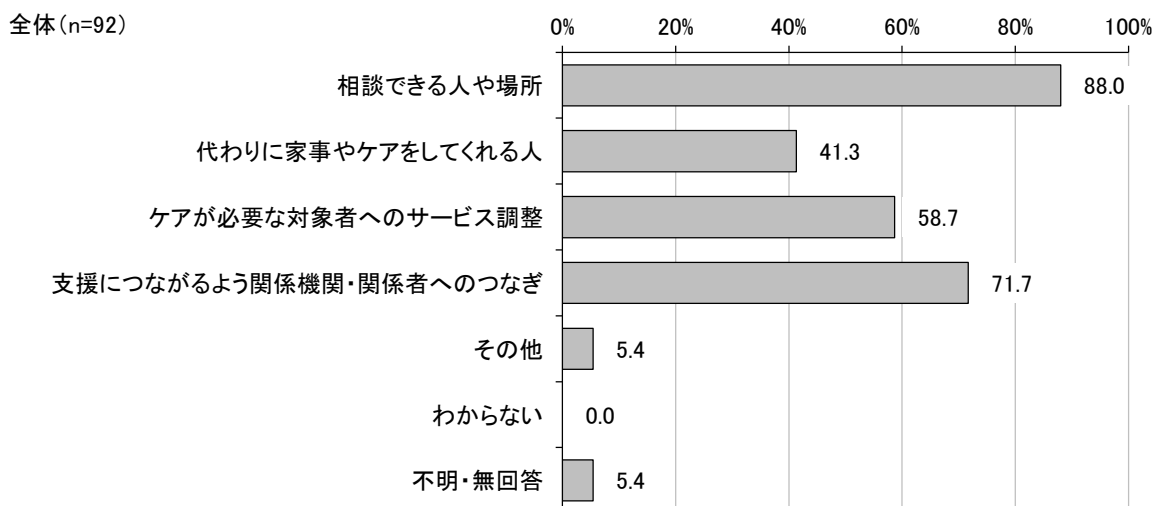
問 21 家庭訪問の際に、ヤングケアラーを見かけたことがありますか。(○は1つ)

家庭訪問の際に、ヤングケアラーを見かけたことがあるかについてみると、「ある」が 9.8%、「ない」が 90.2%となっています。



問 22 ヤングケアラーにはどのような支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

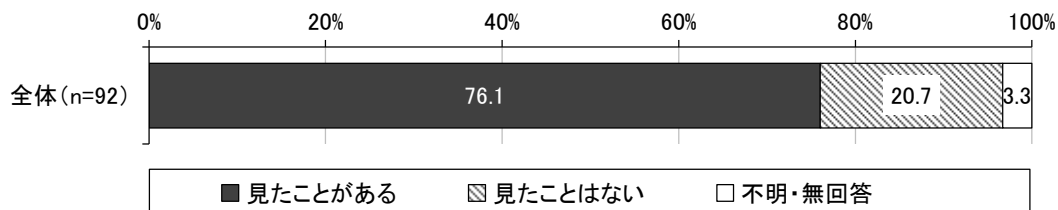
ヤングケアラーにはどのような支援が必要だと思うかについてみると、「相談できる人や場所」が 88.0%と最も高く、次いで「支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ」が 71.7%、「ケアが必要な対象者へのサービス調整」が 58.7%となっています。



7. その他

問 23 「医療・介護情報検索システム」を見たことがありますか。(〇は1つ)

「医療・介護情報検索システム」を見たことがあるかについてみると、「見たことがある」が 76.1%、「見たことはない」が 20.7%となっています。



問 24 第一線で利用者と向き合うケアマネジャーの立場から見て、現在の介護保険制度運営に不足しているものがあれば、率直なご意見をお聞かせください。(自由記載)

自由記載を分類化すると、「介護保険サービスの運用等」に関する意見が 11 件、「介護人材の不足」に関する意見が 10 件、「介護職の待遇等」に関する意見が 8 件となっています。

内容	件数	内容	件数
介護保険サービスの運用等について	11	要支援者、要介護者、その家族への支援について	5
介護人材の不足について	10	介護事業所の数について	4
介護職の待遇等について	8	その他	3

内容	自由回答
介護保険サービスの運用等について (11件)	<p>瑞穂市は岐阜市や大垣市と隣接する場所にあるためサービス事業所がたくさんありご本人様やご家族様の要望にあったサービスを選択しやすい地域であるので助かっています。</p> <p>通所サービスはたくさんありますが訪問介護については問い合わせをするとヘルパーが少ないからという理由により若干希望どおり受けてもらえない時があるように思われます。</p> <p>今後介護保険を利用する当たり、介護状況は悪化するに当たり費用がどんどん増えるのでこれ以上はもう出せないと言われるお声がたくさんあります。負担額がこれ以上増えることのない制度が必要と思われます。</p>
	<p>金銭面の理由で介護サービスの利用控えをしている人(入所も含む)に対する支援。ひとり暮らしの人に対する見守り巡回の支援。</p> <p>入浴のみ利用できる通所サービス(短時間)。</p> <p>家族と同居していても実際は家事が不十分な場合の訪問介護の利用。</p>
	<p>まだまだ介護保険制度を知らない人がいる為、周知が必要だと思う。</p>
	<p>アピール不足、介護保険を利用する時になり、急に不安等ある。保険料、支払い始める時にしくみの説明をすると事前に分かり理解しやすくなるかも。</p>
	<p>在宅介護の実態の把握。介護保険制度の資金運用について。</p>
	<p>利用者がコロナに感染した場合、デイサービス訪問介護のサービスが中止してしまい(コロナ解除になるまで)家族が仕事している場合など、他に頼るサービスがなく家族の負担になってしまう。ケアマネとしても、提案できるサービスがないためどうしたらいいか迷うときがある。</p>
	<p>介護保険制度について病院など関係機関に正しい理解がないことがある。</p>
	<p>制度はあるが一般的に浸透していないと感じる。</p> <p>本人や家族にも気軽に相談できる場所がもっと出来ればいいと思う。</p> <p>“自分たちで解決しなければ、と介護に対してネガティブなイメージを持つ方もまだまだ多いので、悪化してから制度を利用するのではなく、元気なうちから利用できることを知ってもらう取り組みがもっと必要だと思う。</p>
	<p>サービス提供量の地域格差に対する施策。</p>
	<p>利用者、家族にとって制度がわかりにくい。</p> <p>認定結果に利用者家族ケアマネが納得できないケースが多い。</p> <p>入所(短期入所含)の方に提供する入浴サービスについては入浴加算というものはなく週2回の入浴をやりわりと推奨する記載である為、事業所毎で対応が異なる。</p>

内容	自由回答
介護人材の不足について (10件)	とにかく介護現場で働こうとする人材が不足しているためこの事業所も人手不足でバタバタしているように感じる。
	介護職の人材不足。介護士の賃金待遇地位向上。介護離職
	やはり介護サービスに携わる人材不足(量質)に危機感を持っています。CMの立場から、CMそのものの受講者が減っている現状や今後実務者の定年退職や離職等です。現在、もとす広域管内のCMの年会や所属事業所での引退見込みや意向など個人へのアンケートで把握すること等も有効では。将来的に65や70才を超えてもCM業務が可能な方もいるのではないかと思います(数件~十数件)このような方が特定の事業所に所属する(縛られる)ことなくフリーで(特定の団体に登録して斡旋を受ける等)活躍できる場があるとCM難民の心配も少なくなるのではないのでしょうか?
	訪問介護等の介護職員やケアマネジャーの人材不足
	介護職員、ケアマネジャーの人材不足
	強い引率力が不足していると思います。
	ヘルパー不足があると思います。また、仕方がないことですが、家事支援はできるのですが、身体介護になると技量にバラツキがあり難しい(なかなか事業所が決まらない)ことが多々あります。また、ヘルパー支援だと早朝のゴミ出しの支援ができないなど、どうしても細かいところが対応できないと思います。また、核家族、独居の方が増え、現在の介護保険制度でカバーしきれなくなっていると思うことがあります。
	訪問介護の支援調整が難しい。(事業所の人手不足)
	人材不足によるサービスの質の低下
	人員不足。介護の質の低下
介護職の待遇等について (8件)	介護の仕事は本当にたいへんです。もっとそのことを理解していただき、賃金を見直さないと、担い手が減っていき制度運営に支障が生じていきます。
	給料等介護職員の待遇を改善できる仕組みを整えてほしい。
	介護士の賃金待遇地位向上。介護離職。
	一定の経験値や主任CMであれば更新研修免除(国家資格と同等の扱い)等のインセンティブを与え、負担の軽減をしていかないと、長期的な持続が危ぶまれると思います。
	看とりの方や状態変化が激しい方等同じ1件でも頻回に訪問やプラン変更があり、記録が溜まることが多い。記録が多い。
	事務作業が多すぎて実際に家族や関係事業者との調整相談対応する時間に追われ記録する時間が就業時間内だけでは終わらない。
	状態の変化に対応する際等も記録が多く大変だ。もう少し書類や記録等簡素化できないものかと思う、書類作成等にあてる時間をもっと利用者支援に活かしたい
	介護職の意欲低下…給料面でのバックアップ。

内容	自由回答
要支援者、 要介護者、 その家族への 支援について (5件)	若年性認知症の方が集える場がほしい。
	精神障害者への支援。介護保険の対応は難しいケースが多くある。
	介護保険サービスを利用するほどではないが、声掛けや見守りが常時必要な方への支援。(週1.2では足りない) 家族の方への支援。(気軽にいつでも相談できる窓口)
	若年認知症の方のデイ。(就労的なかわりのもてる環境)
	軽度者のうちから関わられるシステムづくり。 現在は地域包括支援センターでの対応であるが配食や健康教室等関わっている事業所からのアプローチが出来ると、利用者さんにとっても安心してスムーズな移行になると思います。
介護事業所の数 について (4件)	訪問介護事業所が少なく、要支援の人が利用できない。
	介護労働する方の不足から介護力の少ない事業所が多い。
	本県北部の方が利用できるサービスの選択肢が少ないと思います。
	←週2回のみ入浴であったり、週3回であったり。毎日の入浴を希望する方にも対応できるように新たに入浴加算を設けてニーズに応えられる事業所を増やすとよいのではないかと思います。
その他 (3件)	2025年問題。高齢者の増加。認知症ケア。
	家族介護することが大前提の介護保険サービスについて核家族化、家族の小規模、単身化がすすみサービス調整だけでは支援量が足りない事が増えてきました。家族に代わるボランティアや地域の支援もまだまだ十分な量ではなく経済的に厳しい方は本当に選択肢がない状況になると感じます。
	介護保険サービス以外の社会資源の情報不足。